

# 村山鋼材

# 今期経常益2億円超へ

# 構造改革効果を最大化

大手ユイルセンターの村山鋼材（本社：千葉県浦安市、村山和雄社長）は、2015年9月期に経常利益2億円以上を目指す。中期目標であるROS（売上高経常利益率）2%の達成に向け、ブランド力の向上やここ数年で進めてきたグループ再構築によるメリットの最大化を図り、収益力を一層高める。主力の鋼板加工・販売の取扱量は前期比1.9%の26万2000トンを計画。前期に経常損失を計上した薄板部門は採算確保を徹底するとともに、堅調な厚板部門は製販一体による拡販をさらに伸ばす。



村山社長

## 鋼板取扱量26万トン計画

同社はリーマン・シ

ョック以降、一貫して事業構造の改革に取り組んでいる。一昨年の東京工場（東京都大田区）の閉鎖に伴う浦安工場への集約や東京、茨城、神奈川への営業所開設など、選択と集

中」を猛烈に進めており、このほか業務効率向上を目的とした本社移転や、厚板営業部の移転による製販一体体制確立も実施。昨年には遊休地にメガソーラーを建設し、太陽光発

電事業への進出も果たした。今期は新体制の強みを着実に発揮するとともに、非価格競争力の強化に挑む。レーザー切断用鋼板に続く新たな商品の開発や品質・デリバリーなどのサービス向上に努め、「Made in MURADE」

YAMA」に磨きをかけることで「景気に左右されない安定した事業基盤を確立する」(村山社長)。

厚板部門は浦安工場での月間加工量2万トンを中期目標に掲げており、今期は同1万6700トンを引き上げる。足元は10月が1万8000トンを達し、浦安工場としての過去最高を記録。引き続き好調なトラックや建設機械、厚板代替などの需要を取り込み、高稼働の維持に注力する。自社販売は月間4300トンを計画する。

薄板部門は採算改善を最重要課題と位置付ける。各営業所を軸に地域密着型の営業を展開し、小口・短納期ニーズにきめ細かく応える。自社販売は前期並みの月間4400トンを目標に掲げ、経常利益3600万円の確保を必達とする。

倉庫部門は景気回復に伴う出入庫量の増加で、前期は厚板部門に匹敵する収益を上げたが、今期は前期よりも厳しい環境が続くと想定。継続して新規顧客の開拓を進める。発電が順調な太陽光事業では、2年目での収支均衡（損益トントン）を視野に入れる。

同業の藤澤鋼板との協業は「うまくいっており、設備だけでなく、社員レベルでの交流も深まっている」と同。相互の信頼関係を深化させ、パートナーシップをより強固にしていくことだ。(両社) 総合力を高めていきたい」と(同)としている。